

《担当者名》歯学部 組織再建口腔外科学分野
 ○教授 / 奥村 一彦
 歯学部 口腔再建医学分野
 教授 / 村田 勝

【概要】

口腔外科学は、口腔を構成する組織、器官を含んだ顎顔面領域で発症する疾患を対象として、主に手術療法の対象となる疾患の診断と治療を理解し、機能的、形態的回復を通じて、患者の全身の健康の維持や回復に寄与するための処置と手術法の基本について学習する。さらに、口腔外科診療の実際を理解して、その診療介助を学ぶ。

【学修目標】

- 顎・口腔外科領域における各種疾患、および口腔に関連した全身疾患の病態と治療法について説明する。
- 顎・口腔領域の先天異常と発育異常について、症状、原因、および治療法を説明する。
- 顎・口腔領域の損傷および機能障害について、症状、原因、および治療法を説明する。
- 口腔粘膜の病変について、症状、原因、および治療法を説明する。
- 顎・口腔領域の化膿性炎症疾患について、症状、原因、および治療法を説明する。
- 顎・口腔領域の嚢胞性疾患について、症状、原因、および治療法を説明する。
- 顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患について、症状、原因、および治療法を説明する。
- 唾液腺疾患について、症状、原因、および治療法を説明する。
- 口腔領域の神経疾患について、症状、原因、および治療法を説明する。
- 血液疾患と出血性素因について、症状、原因、および治療法を説明する。
- 口腔病変と全身疾患について、症状、原因、および治療法を説明する。
- 口腔外科診療の実際を理解し、その診療介助について説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	顎・口腔領域の先天異常と発育異常 1. 歯の発育異常 2. 口腔軟組織の先天異常と発育異常 3. 口唇裂・口蓋裂 4. 顎の先天異常と発育異常	顎・口腔領域の先天異常と発育異常について、症状、原因、および治療法を概説できる。 教科書：p. 19-33	奥村 一彦
2	顎・口腔領域の損傷および機能障害 1. 軟組織の損傷 2. 歯および歯槽の外傷 3. 顎骨骨折 4. 顎関節疾患	顎・口腔領域の損傷および機能障害について、症状、原因、および治療法を概説できる。 教科書：p. 34-49	奥村 一彦
3	口腔粘膜の病変 1. 水疱形成を主徴とする疾患 2. 紅斑およびびらんを主徴とする疾患	口腔粘膜の病変について、症状、原因、および治療法を概説できる。 教科書：p. 50-57	奥村 一彦
4	3. 潰瘍を主徴とする疾患 4. 白斑を主徴とする疾患	口腔粘膜の病変について、症状、原因、および治療法を概説できる。 教科書：p. 57-63	奥村 一彦
5	5. 色素沈着を主徴とする疾患 6. 粘膜の萎縮を主徴とする疾患 7. 口腔の乾燥を主徴とする疾患 8. そのほかの異常および疾患	口腔粘膜の病変について、症状、原因、および治療法を概説できる。 教科書：p. 63-69, p. 76-79	奥村 一彦
6	顎・口腔領域の化膿性炎症疾患 1. 炎症とは 2. 歯周組織の炎症 3. 顎骨の炎症 4. 顎骨周囲組織の炎症	顎・口腔領域の化膿性炎症疾患について、症状、原因、および治療法を概説できる。 教科書：p. 80-88	村田 勝
7	顎・口腔領域の嚢胞性疾患 1. 嚢胞とは	顎・口腔領域の嚢胞性疾患について、症状、原因、および治療法を概説できる。	村田 勝

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	2.顎骨に発生する嚢胞 3.軟組織に発生する嚢胞	教科書：p. 89-96	
8	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 1.腫瘍とは 2.腫瘍の分類 3.歯源性腫瘍と非歯源性腫瘍 4.腫瘍類似疾患	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患について、症状、原因、および治療法を概説できる。 教科書：p. 97-111	村田 勝
9	唾液腺疾患 1.唾液と唾液腺 2.炎症性唾液腺疾患 3.唾石症 4.唾液分泌異常 5.唾液腺腫瘍 口腔領域の神経疾患 1.顎口腔の知覚神経と運動神経 2.神経痛 3.神経麻痺 4.神経痙攣	唾液腺疾患について、症状、原因、および治療法を概説できる。 教科書：p. 112-121 口腔領域の神経疾患について、症状、原因、および治療法を概説できる。 教科書：p. 122-129	村田 勝
10	血液疾患と出血性素因 1.赤血球系の疾患 2.白血球系の疾患 3.出血性素因 口腔病変と全身疾患 1.口腔領域に原発する主な顎・口腔の症状	血液疾患と出血性素因について、症状、原因、および治療法を概説できる。 教科書：p. 70-75 口腔病変と全身疾患について、症状、原因、および治療法を概説できる。 教科書：p. 8-9	村田 勝
11	口腔外科診療の実際 1.口腔外科治療の流れ 2.診察と診断	口腔外科診療の実際と診療介助を概説できる。 教科書：p. 130-134	奥村 一彦
12	3.清潔と不潔 4.創傷の処置	口腔外科診療の実際と診療介助を概説できる。 教科書：p. 135-137	奥村 一彦
13	5.口腔外科小手術 消炎手術 拔牙術 嚢胞摘出術 歯根端(尖)切除術	口腔外科診療の実際と診療介助を概説できる。 教科書：p. 138-156	奥村 一彦
14	5.口腔外科小手術 良性腫瘍摘出術 歯槽骨整形術 小帯切除術 口腔インプラント手術	口腔外科診療の実際と診療介助を概説できる。 教科書：p. 157-162	奥村 一彦
15	6.止血処置 7.縫合処置	口腔外科診療の実際と診療介助を概説できる。 教科書：p. 163-172	奥村 一彦

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による。

【評価方法】

【口腔外科学（講義）評価方法】 後期定期試験（多肢選択式客観試験および一部筆記試験）（100％）

【判定法】 後期定期試験、後期追再試験で、各々60点以上とする。

【教科書】

全国歯科衛生士教育協議会 監修：最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患—口腔外科・歯科麻酔 第1版 医歯薬出版 東京 2012年

【参考書】

奥村 一彦：なぜか考える口腔外科 クインテッセンス出版 2016年

栗田 賢一 編集代表：SIMPLE TEXT 口腔外科の疾患と治療 第5版 永末書店 京都 2019年

【学修の準備】

指定した教科書の該当ページを事前に読み、疑問点を整理しておくとともに、使用されている専門用語を理解しておく(50分)。

前回までの講義内容についてノート、教科書、配付されたプリントを用いて十分な理解をしておく(50分)。

【ディプロマポリシー（学位授与方針との関連）】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために口腔・顎顔面領域疾患の治療法を学修する（専門的実践能力）（専門的実践能力）。
DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために口腔・顎顔面領域疾患の患者への対応法を学修する（多職種が連携するチーム医療）。

【実務経験】

奥村 一彦(歯科医師)、村田 勝(歯科医師)

【実務経験を活かした教育内容】

口腔外科学は、口腔を構成する組織、器官を含んだ顎顔面領域で発症する疾患を対象として、主に手術療法の対象となる疾患の診断と治療を行って機能的、形態的回復を通じて、患者の全身の健康の維持や回復に寄与する臨床科目である。また、口腔外科学は医学と歯学の共通の場であることから、幅広い実務経験を持った教員が臨床の場ですぐ実践できる手技と理論をもとに講義を行う。